



“これで、健康だワン”

愛犬専用歩数計

「わんだント」

開発ストーリー



左
ユビキタスサービス事業本部
コンシューマビジネス統括部
アライアンス推進部
マネージャー

三ッ山 陽子

右
ユビキタスサービス事業本部
コンシューマビジネス統括部
アライアンス推進部

水口 亮



愛犬の革新的な健康管理を、歩数計とクラウドサービスで実現

大切に育てられるペットたちも、近年は肥満や糖尿病にかかる例が増えてきました。愛犬の健康管理を、携帯電話で培ったセンシング技術でサポートできないだろうか？

そんな社員の小さなひと言から、愛犬専用歩数計&健康管理クラウドサービスが誕生し、ペット業界のみならず全世界で大きな反響を呼んでいます。その開発ストーリーを今回はご紹介します。

携帯電話で培ったセンシング技術をペットに応用

ペットはもはや大切な家族の一員。人とペットとの距離が縮まり、家族化傾向が強まるにつれ、ペットにも肥満や生活習慣病が蔓延するようになりました。ヒューマンセントリックなICTを活用して、犬の健康管理をサポートしたい。そんな思いから「わんだント」は開発されました。

きっかけは社内のマネージャー研修。部門を超えて集められたメンバーが自由に新ビジネスを発想し、経営陣へ提言するプログラムの中から偶然生まれました。その斬新な着想にG0サインが出たのは2010年12月。富士通が携帯端末開発で培ってきたセンシング技術を応用し、犬専用の歩数計とクラウドを活用した健康管理サポートを一体化したサービスの本格的な開発がスタートしました。

犬の健康管理に重要な3つの機能を搭載

歩数計機能は、すでに実績が豊富な携帯電話搭載の3D加速度センサーによるセンシング技術を応用しました。しかし、人と犬の骨格差や犬の歩き方・走り方が5種類もあるという特性から、そのまま技術移植することは不可能でした。開発担当者は、実際の犬にセンサーを取りつけてビデオ撮影しながらデータを収集。それを富士通研究所が解析し、苦難の末に犬専用の歩数アルゴリズムの構築に成功しました。

また犬はストレスを強く感じると、ぶるぶると体を震わせる動作をすることから、そうした震えも自動で計測・記録する

機能を開発し搭載しました。さらに散歩中の犬は飼い主と比べてより気温が高い地表面近くを歩くことから、温度センサーも搭載し、外気温や留守中の室温の温度変化も把握できるように工夫し、熱中症の予防対策機能も付加しました。

富士通ならではのセンシング技術によって、本体に記録したデータはスマートフォンやPCを介して簡単にクラウド上のサーバへ転送。データを蓄積するとともに、使いやすいWebページで健康管理を中心とした愛犬日記を作成できるようにしました。

発表と同時に世界的に大きな反響が

2012年5月に犬専用の歩数計技術を開発したことを発表し、2012年11月のサービス開始記者発表を経て、「わんだント」は発売されました。本製品に対する関心は非常に高く、リリース直後から各種メディアで紹介されたほか、世界各地の様々な業界から問い合わせが続いています。特にペット市場の規模が大きい北米や欧州からの問い合わせも活発で、その期待の高さは想像を遥かに超えていました。

2013年より、アニコムホールディングス株式会社と日本獣医生命科学大学・左向教授の協力のもと、ペットの行動および健康に関する共同研究も開始しました。また当社では本製品と同時期に「どうぶつ医療クラウド」の開発・実証実験をスタートさせ、ペットの検査記録や診療記録の一元管理・活用が可能なこのクラウドサービスと「わんだント」の有機的な連携も積極的に推進しています。

今後は、さらなる小型軽量化とともに見守り機能などを追加し、愛犬の健康サポートサービスを拡充していく予定です。

